

三鈷寺

鴨瀬山の中腹にある三鈷寺は、京都盆地を一望できることでよく知られています。この寺は左側には比叡山と北山、前方には東山連峰、そして右側には南部の宇治市や木津川市までを見晴らせる景色を有しており、周囲のもみじの木々が赤やオレンジ色に染まる秋は特に人気があります。また、三鈷寺は善峯寺の隣に位置しているので、一度の旅行でこの 2 か所の寺を気軽に楽しむことができます。

多くの仏教の教えが伝わる場所

この寺の起源は、1074 年に天台僧の源算上人（983 年～1099 年）が庵を建立し、北尾往生院と名付けたことから始まります。1213 年、西山三派の流祖證空（西山国師、1177 年～1247 年）が念仏（阿弥陀如来の名をお唱えする）道場として再興しました。證空は、寺院の背後にある山が三叉の仏具である三鈷杵に似ていることから、三鈷寺と改名しました。1951 年に天台宗から西山宗の本山として独立し、天台・真言・律・浄土の四宗の教えを説いています。

本堂とその宝物

本来の御本尊である仏眼曼荼羅は、現在の本堂に安置するのが難しいので、現在、金色不動明王像を御本尊としてお祀りしています。この仏像は今の場所に本堂が移築する前に仏眼曼荼羅の御前立ちとしてお祀りされていました。他の仏像としては、三鈷杵をモチーフにした台座上の阿弥陀如来、聖徳太子（574 年～622 年）、源算、そして真言宗の開祖である空海（弘法大師、774 年～835 年）が安置されています。本堂の東側に華台廟があり、證空と彼の弟子である歌人の蓮生（1178 年～1259 年）の五輪塔が納められている高い台座の上に、證空の像が安置されています。